

伊豆半島東岸から得られたベラ科魚類 *Pseudocoris ocellata* ヒトミベラ（新称）の標本に基づく日本初記録および本種の日本における生息状況

和田英敏^{1,2}・瀬能 宏²・高瀬 歩³・柳田満彦⁴・鈴木美智代⁵・横田雅臣⁶

Author & Article Info

¹ 東京大学総合研究博物館（東京）

HW: h-wada@nh.kanagawa-museum.jp (corresponding author)

² 神奈川県立生命の星・地球博物館（小田原市）

³ さかなや潜水サービス（伊東市）

⁴ スキューバサービスステーション NASO（伊東市）

⁵ ダンズダイブショップ（伊東市）

⁶ GO TO THE SEA（伊東市）

Received 14 March 2024

Revised 27 March 2024

Accepted 27 March 2024

Published 29 March 2024

DOI 10.34583/ichthy.42.0_38

Hidetoshi Wada, Hiroshi Senou, Wataru Takase, Mitsuhiro Yanagita, Michio Suzuki and Masaomi Yokota. 2024. First specimen-based Japanese record of *Pseudocoris ocellata* (Perciformes: Labridae) from the east coast of Izu Peninsula, central Japan, with notes on the occurrence of the species in Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 42: 38–45.

Abstract

A single specimen (132.5 mm standard length) of Taiwan Tropedo Wrass, *Pseudocoris ocellata* Chen and Shao, 1995 (Perciformes: Labridae), currently known only from southern Japan and Taiwan, was collected from the Izu Oceanic Park, east coast of Izu Peninsula, Shizuoka Prefecture, Japan. In Japanese waters, *P. ocellata* has previously been recorded from Sagami Bay (east coast of Izu Peninsula and Izu-oshima island), Suruga Bay, Wakayama and Miyazaki prefectures, and the Satsuma Peninsula on the basis of underwater photographs, and no voucher specimens of the species have been recorded from Japan. Thus, the present specimen, described herein detail, represents the first specimen-based record of *P. ocellata* from Japan. The new standard Japanese name “Hitomi-bera” is proposed for the species on the basis of the specimen. This specimen’s pored lateral line scales were 72, higher than the previously known range for the species provided from type specimens from Taiwan, 64–69. Since the average sea surface temperature in the east coast of the Izu Peninsula is lower than that in the coastal seas of Taiwan, it is possible that this specimen has more pored lateral-line scales than Taiwanese population, following the so-called Jordan’s rule. The populations of *P. ocellata* in Sagami Bay, Japan, possibly supplied by the Kuroshio Current from Taiwan since 1984, are now probably reproducing.

Pseudocoris ocellata Chen and Shao, 1995 は、全世界から 9 有効種が知られるベラ科シラタキベラダマシ属 (Labridae:

Pseudocoris Bleeker, 1862) の海産魚類である (Randall et al., 2015; Fricke et al., 2024). 本種は主に水深 15 m 前後の岩礁域に生息し、これまでに日本および台湾から散発的に記録されている (邵ほか, 1994; Chen and Shao, 1995; Kuitert, 2010, 2012; Randall et al., 2015; 加藤, 2016). 日本国内において、本種は 1994 年に伊豆大島で目視により記録されて以来、伊豆半島東岸、駿河湾、和歌山県、宮崎県南部、および薩摩半島西岸から水中写真により記録されているが (Senou et al., 2006; 瀬能・松浦, 2007, 2012; Kuitert, 2010, 2012; 西山・本村, 2012; 加藤, 2016; 田代・古橋, 2022; 村瀬ほか, 2023), これまでに本種の日本産の標本に基づく記録は無い. また、本種の形態学的情報の記載は台湾産の 10 標本に基づく原記載である Chen and Shao (1995) と、4 個体のパラタイプを再調査した Randall et al. (2015) に限られる.

2024 年 1 月 10 日に相模湾南西に位置する伊豆半島の東岸の水深 17 m から 1 個体のベラ科魚類が採集された. この標本を精査したところ、計数・計測形質、および色彩などの特徴から *P. ocellata* に同定された. 伊豆半島産の 1 標本は本種の日本における標本に基づく初めての記録となるため、本研究では本標本を詳細に記載して原記載との比較をおこなうとともに、この標本に基づいて本種に対する新標準和名を提唱する.

材料と方法

計数・計測方法は概ね Chen and Shao (1995) に従い、側線上方横列鱗数の計数は Randall et al. (2015) に従った. 鰓耙数は標本の右体側の鰓膜を前鰓蓋骨後端部直下から頤まで前鰓蓋骨腹縁に沿ってメスで切開し、鰓蓋の可動域を拡大した上で計数した. 計測は実体顕微鏡下でノギスを用いて 0.05 mm の精度で測定したが、本文中では四捨五入して小数点第 1 位までを表記した. 標準体長 (体長) および全長はそれぞれ SL および TL と表記した. 鮮時の色彩は固定前に撮影された標本のカラー写真 (Fig. 1: KPM-NR 232694) に基づいておこなった. 色の名称は財団法人日本色彩研究所 (1993) の系統色名を用いた. 水中写真で撮影



Fig. 1. Fresh specimen of *Pseudocoris ocellata* collected from Izu Oceanic Park, Izu Peninsula, central Japan (KPM-NI 78297, 132.5 mm SL, photo by H. Senou).

された個体の同定および雌雄の判別はChen and Shao (1995) および Randall et al. (2015) に従い、色彩をはじめとした外部形態の特徴に基づきおこなった。水温は観察個体が発見された水深帯においてダイビングコンピューターを用いて計測した。本報告に用いた標本および水中写真は、神奈川県立生命の星・地球博物館に魚類標本コレクション (KPM-NI) および魚類写真資料コレクション (KPM-NR) として保管されている。ただし、同館の資料番号はコンピュータ上での利便性からゼロを含む7桁の数字で表記されることがあるが、ここでは資料番号として本質的な有効数字で表記した。神奈川県立生命の星・地球博物館以外の研究機関コードおよびコレクションコードはSabaj (2020) に従った。相模湾の範囲についてはSenou et al. (2006) に従った。

Pseudocoris ocellata Chen and Shao, 1995

ヒトミベラ (新称)

(Figs. 1–5; Table 1)

標本 KPM-NI 78297, 132.5 mm SL, 静岡県伊東市富戸

相模湾南西部 伊豆半島東岸 伊豆海洋公園, 水深 17 m, 2024 年 1 月 10 日。

写真 伊豆半島東岸 (伊豆海洋公園): KPM-NR 70192, 60 mm TL, 雄, 水深 17 m, 14°C, 2009 年 7 月 7 日, 高瀬 歩撮影; KPM-NR 70193, 60 mm TL, 雌, 水深 6 m, 18°C, 2008 年 12 月 1 日, 高瀬 歩撮影; KPM-NR 73280, 雌, 水深 7–8 m, 2010 年 4 月 19 日, 橋本郁代撮影; KPM-NR 73291, 雄, 水深 18 m, 2010 年 1 月 11 日, 兵頭浩二撮影; KPM-NR 73329, 雄, 水深 8 m, 28°C, 2010 年 8 月 15 日, 高橋良文撮影; KPM-NR 92078, 雌, 水深 8 m, 14°C, 2007 年 2 月 3 日, 山本 敏撮影; KPM-NR 93630, 雌, 水深 13 m, 22°C, 2007 年 9 月 1 日, 山本 敏撮影; KPM-NR 97278, 100 mm TL, 雌, 水深 8 m, 2009 年 1 月 2 日, 鳥巢真充撮影; KPM-NR 161038, 雄, 水深 16 m, 19°C, 1997 年 11 月 25 日, 古田土裕子撮影; KPM-NR 216880, 雌, 水深 9 m, 18°C, 2020 年 2 月 23 日, 鈴木美智代撮影; KPM-NR 216881, 80 mm TL, 雄, 水深 9 m, 22°C, 2020 年 7 月 3 日, 鈴木美智代撮影; KPM-NR 216998, 120 mm TL, 雌雄, 水深 16 m, 15°C, 2021 年 3 月 1 日, 鈴木

美智代撮影；KPM-NR 216999, 100 mm TL, 雌, 水深 7 m, 19°C, 2021 年 4 月 28 日, 鈴木美智代撮影；KPM-NR 217149, 雄, 2020 年 12 月 5 日, 橋本郁代撮影；KPM-NR 229525, 雄, 水深 10–20 m, 19°C, 2022 年 5 月 23 日, 和田英敏撮影；KPM-NR 232694, KPM-NI 78297 の標本写真, 2024 年 1 月 10 日, 瀬能 宏撮影；KPM-NR 243458, 雄, 水深 8 m, 22°C, 2020 年 11 月 26 日, 末松知宙撮影；KPM-NR 243459, 雌, 水深 8 m, 22°C, 2020 年 11 月 26 日, 末松知宙撮影；KPM-NR 248067, 100 mm TL, 雌, 水深 10 m, 2018 年 8 月 14 日, 鈴木美智代撮影；KPM-NR 248068, 100 mm TL, 雌, 水深 10 m, 2018 年 8 月 16 日, 鈴木美智代撮影；KPM-NR 248069, 120 mm TL, 雌, 水深 10 m, 2019 年 9 月 5 日, 鈴木美智代撮影；KPM-NR 248073, 140 mm TL, 雄, 水深 15 m, 2024 年 1 月 3 日, 鈴木美智代撮影；KPM-NR 248074, 140 mm TL, 雄, 水深 15 m, 2023

年 5 月 23 日, 和田英敏撮影；KPM-NR 248501, 雄, 2022 年 5 月 16 日, 高瀬 歩撮影；KPM-NR 248502, 雌, 2015 年 5 月 16 日, 高瀬 歩撮影；KPM-NR 248503, 20 mm TL, 幼魚, 水深 14 m, 2009 年 10 月 13 日, 高瀬 歩撮影；KPM-NR 248504, 雄, 2020 年 11 月 19 日, 高瀬 歩撮影；KPM-NR 248505, 雄, 2010 年 1 月 8 日, 高瀬 歩撮影；KPM-NR 248509, 雄, 130 mm TL, 水深 12–13 m, 16 °C, 2009 年 12 月 30 日, 横田雅臣撮影. 伊豆半島西岸(駿河湾)：KPM-NR 73180, 25 mm TL, 幼魚, 大瀬崎, 水深 5 m, 2010 年 9 月 25 日, 御宿昭彦撮影；KPM-NR 164222, 雌, 黄金崎公園, 水深 7 m, 24–25°C, 2015 年 9 月 12 日, 任 賢治撮影. 伊豆大島(秋の浜)：KPM-NR 15771, 雄, 水深 14 m, 1997 年 9 月 27 日, 大沼久之撮影；KPM-NR 15773, 雌雄, 水深 14 m, 1997 年 9 月 27 日, 大沼久之撮影；KPM-NR 15774, 雄, 水深 12 m, 1997 年 9 月 23 日,

Table 1. Counts and measurements of *Pseudocoris ocellata*.

Type status Sex	Japan this study	Taiwan Chen and Shao (1995)		
	Non-type male KPM-NI 78297	Holotype male ASIZP 56678	Paratype female BPBM 35751	Paratypes young n = 3
Standard length (mm)	132.5	110.8	101.0	33.9–40.2
Counts				
Dorsal-fin rays	IX, 12	IX, 12	IX, 12	IX, 12
Anal-fin rays	III, 12	III, 12	III, 12	III, 12
Pectoral-fin rays	14	15	13–15*	13–15*
Pored lateral-line scales	72	68	66–69*	66–69*
Scale rows above lateral line	4	—	4**	4***
Scale rows below lateral line	21	19	19–20*	19–20*
Gill rakers on first gill arch	17	17	14–18*	14–18*
Measurements (% of SL)				
Body depth	21.1	24.2	23.0	19.8–20.4
Body width	11.4	13.6	14.1	13.4–13.5
Head length	28.7	27.7	27.6	29.6–31.8
Snout length	8.4	6.6	6.2	8.3–8.3
Orbit diameter	4.0	4.3	4.7	5.8–6.7
Interorbital width	6.7	6.7	7.1	6.1–6.6
Caudal-peduncle depth	10.4	11.4	12.2	10.6–11.7
Caudal-peduncle length	11.8	12.3	11.8	12.6–12.7
Predorsal length	26.7	25.0	24.8	29.2–30.3
Preal length	53.7	52.9	54.4	54.6–54.7
Prepelvic length	28.9	27.8	27.6	29.2–30.1
Dorsal-fin base length	61.1	63.1	63.1	57.5–59.3
First dorsal-fin spine length	10.1	12.9	7.9	3.7–4.8
Second dorsal-fin length	7.6	6.8	5.8	5.9–6.2
Last dorsal-fin spine length	8.6	10.2	8.9	9.3–9.9
Longest dorsal-fin soft ray length	10.1	11.4	9.8	10.9–11.9
Anal-fin base length	33.2	34.9	35.0	33.2–34.2
First anal-fin spine length	1.4	2.6	1.4	2.3–2.7
Second anal-fin spine length	4.5	4.7	4.1	5.2–5.3
Third anal-fin spine length	6.9	7.2	6.2	8.2–8.5
Longest anal-fin soft ray length	10.0	11.0	10.2	10.4–10.9
Caudal-fin length	15.2	15.9	16.7	19.1–20.1
Pectoral-fin length	19.2	17.6	17.1	19.3–21.7
Pelvic-fin spine length	7.3	6.6	7.3	6.7–8.2
Pelvic-fin length	10.1	10.1	10.4	9.8–10.1

*Relevant values are within a range of stated values; ** and *** based on BPBM 35751 and 35752, respectively, given by Randall et al. (2015).

大沼久之撮影；KPM-NR 16354, 雄, 水深 6 m, 1998 年 3 月 15 日, 狐塚英二撮影；KPM-NR 15838, 雌, 水深 8–12 m, 1997 年 6 月, 大沼久之撮影. 和歌山県：KPM-NR 248506, ca. 50 mm TL 幼魚, 和歌山県東牟婁郡串本町高富, 串本海中公園前のビーチ, 水深 5 m, 2009 年 8 月 25 日, 参木正之撮影. 薩摩半島：KPM-NR 248507, 雌, 鹿児島県揖宿郡開聞町, 花瀬望比公園地先, 水深 10 m, 2005 年 5 月 30 日, 山田守彦撮影, 雌のみで構成された 20 個体前後の群れで見られる；KPM-NR 248508, 雌, 鹿児島県川辺郡坊津町, 久志湾, 水深 7 m, 2005 年 5 月 30 日, 山田守彦撮影.

記載 計数値と体各部の体長に対する割合 (%) を Table 1 に示す. 体は細長く, 側扁する. 体高は背鰭第 1 軟条基部付近において最大で, 体高は体幅の 1.85 倍. 体背縁は上顎前端から背鰭第 1 棘基部にかけて緩やかに上昇し, 眼の上方でわずかに凹む. 背鰭第 1 棘基部から背鰭第 1 軟条基部までの体背縁はほぼ平行で, そこから背鰭第 12 軟条基部にかけて緩やかに下降する. 体腹縁は下顎先端から腹鰭起部まで弧をえがきながら緩やかに下降し, そこから肛門直前まではほぼ平行. 肛門直後から臀鰭第 12 軟条基部にかけては緩やかに上昇する. 尾柄部は後方に向かって次第に細くなり, 尾鰭基底直前において急に太くなる.

頭部は小さく, 前端はとがる. 両鼻孔は眼窩上前方に位置し, 互いに接近する. 頭部の皮膚に若干のしわをもつ. 前鼻孔は短い管状で, 後鼻孔は楕円形で前縁部に短い皮弁をもつ. 眼は頭部側面の中央部に位置する. 口は端位で小さく, 口裂は体軸に対しておおよそ 30° の角度をもつ. 両顎の唇はわずかに肥厚し, 上唇は下唇よりわずかに突出する. 主上顎骨後端は眼窩前縁の前方に位置する. 両顎の前方にはわずかに側方に湾曲した 1 対の犬歯状歯をもつ；両顎歯の最外列には 1 列の強い円錐歯列をもち, 最も大きいものは犬歯状歯の長さのおよそ 2 分の 1；口角に犬歯状歯をもたない；円錐歯列の内側には密集した小さい円錐歯で構成される歯帯をもつ. 左右の鰓膜は峽部に癒合せず, 峽部を横断して連続する.

前端部を除いた背鰭および臀鰭は中庸に高く, それぞれの遠縁の輪郭は背・腹縁の輪郭にほぼ並行. 背鰭第 1 棘は長く伸長する；背鰭第 1・2 棘は他の棘条と比較して互いによく接近する. 尾鰭は截形で後縁が強く円みをおびる；尾鰭分枝軟条数は 14 で, 尾鰭分枝軟条数は 12. 胸鰭は後縁が円みをおびた三角形で, 最上軟条は痕跡的であり, 後端は背鰭第 6 棘基底直下に達する. 腹鰭は 1 棘 5 軟条；輪郭は概ね三角形で, 後縁は円みをおびる；腹鰭は短く, たんだ腹鰭の後端は背鰭第 5 棘基底直下に達する.

体は頭部を除き円鱗で被われる. 頭部は無鱗. 各鰭は尾鰭の基部を除き無鱗であり, 尾鰭基部はわずかに鱗に被われる. 側線は完全で, 鰓孔上端からはじまり, 背鰭第 4 棘基底直下まで緩やかに上昇し, そこから背鰭第 9 棘

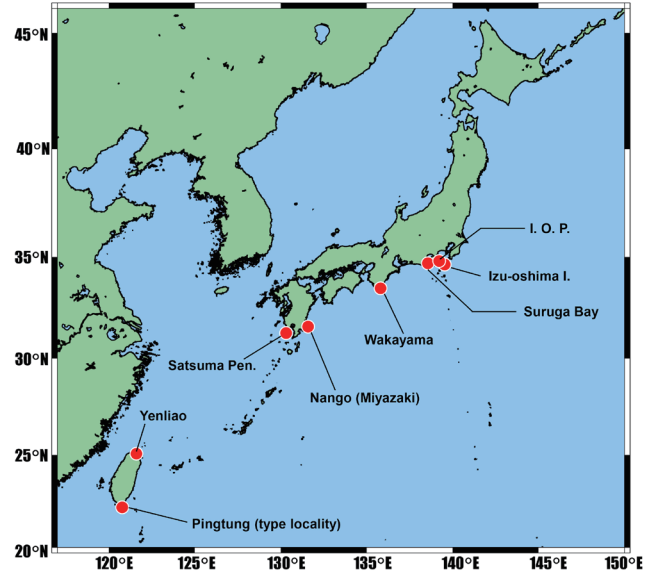


Fig. 2. Distributional records of *Pseudocoris ocellata*. IOP indicates the Izu Oceanic Park, east coast of Izu Peninsula, Japan.

基底直下まで緩やかに下降, さらに背鰭第 10 軟条基底直下までは著しく下降し, そこから尾鰭基底中央までは体軸に対して水平に走る. 各側線鱗には 1 つの開孔をもつ.

色彩 生鮮時 (Fig. 1) 一体の地色は体背面においてつよい赤みのオレンジで, 体腹面においてさえた黄みのオレンジ. 頭側面に明るい青の虫食い状斑をもつ. 体側面中央部に輪郭のにじんだ明るい緑みの青の小斑で縁どられた大きな 1 黒色斑をもち, その後方ににぶい青緑のしみ状斑をもつ. 体側面のほぼ全域に明るい緑みの青の小斑が散在する. 背鰭第 1・2 棘間の鰭膜は黒. その他の背鰭鰭条間の鰭膜の地色はさえたオレンジで, 明るい緑みの青の小斑が散在し, 遠縁部は明るい緑みの青で縁どられる. 臀鰭の地色は明るい赤みの黄で, 臀鰭第 3 棘から臀鰭第 12 軟条間の臀鰭基底付近の鰭膜に明るい緑みの青の逆 Y 字型の斑をもち, 遠縁部は明るい緑みの青で縁どられる. 尾鰭はつよい赤みのオレンジで, 不明瞭な緑みのスカイの虫食い状斑をもつ. 胸鰭はつよい赤みのオレンジ. 腹鰭はさえた黄みのオレンジ.

分布 本種は北西太平洋の以下の海域から記録されている (Fig. 2)：伊豆半島東岸 (西山・本村, 2012；加藤, 2016；本研究)；伊豆大島 (Senou et al., 2006；Kuitert, 2010, 2012；西山・本村, 2012；加藤, 2016；本研究)；駿河湾 (本研究)；和歌山県 (西山・本村, 2012；本研究)；宮崎県南部 (村瀬ほか, 2023；本研究)；薩摩半島南西部 (田代・古橋, 2022；本研究)；台湾北東部および南部 (邵ほか, 1994；Chen and Shao, 1995；Chen et al., 2004).

備考 伊豆半島東岸から得られた 1 標本は, 背鰭鰭条数が IX, 12, 臀鰭鰭条数が III, 12, 胸鰭軟条数が 14, 腹鰭鰭条数が I, 5, 尾鰭分枝軟条数が 14, 尾鰭分枝軟条数が 12, 側線有孔鱗数が 79, 総鰓耙数が 17, 鰓条骨数が 5,

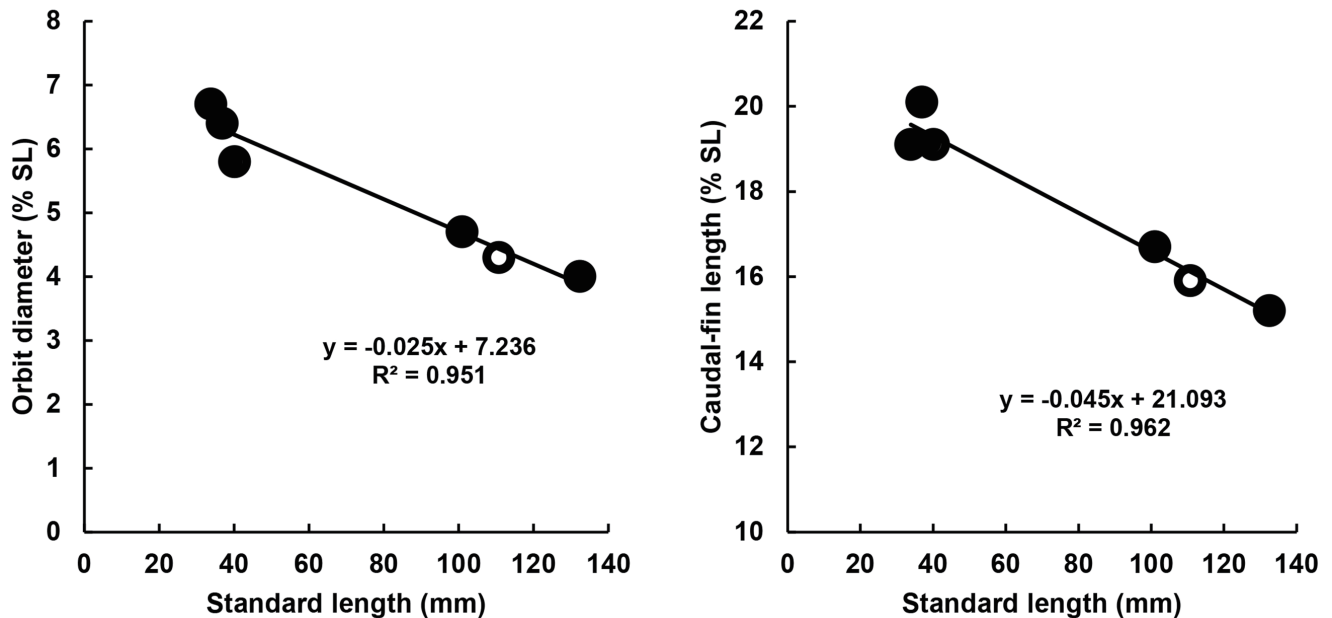


Fig. 3. Relationships of orbit diameter and caudal-fin length (as % SL) with SL (mm) in *Pseudocoris ocellata*. Open and closed circles indicate holotype and other specimens of *P. ocellata* respectively.

体高が体長の4.73倍、体が側扁し、体高が体幅の1.85倍、体長が頭長の3.48倍、吻が短く、頭長が吻長の3.4倍、眼が頭部側面の中央部に位置する、口が端位で小さく、口裂が体軸に対しておおよそ30°の角度をもつ、両顎の唇がわずかに肥厚する、主上顎骨後端が眼窩前縁の前方に位置する、両顎の前方にはわずかに側方に湾曲した1対の犬歯状歯をもつ、両顎歯の最外列には1列の強い円錐歯列があり、最も大きいものは犬歯状歯の長さのおよそ2分の1、口角付近に犬歯状歯をもたない、円錐歯列の内側には密集した小さい円錐歯で構成される歯帯をもつ、体が頭部を除き円鱗で被われる、頭部および背鰭、臀鰭が無鱗、尾鰭基底部分が僅かに鱗に被われる、側線が連続し、背鰭第10軟条基底直下で著しく下降する、背鰭第1棘が長く伸長する、背鰭第1・2棘が他の棘条と比較して互いによく接近する、胸鰭の最上軟条が痕跡的、腹鰭が短い、尾鰭は截形で後縁が強く円みを帯びるなどの形態学的特徴がRandall et al. (2015)の示した*Pseudocoris*の標徴とよく一致し、さらに側線上方横列鱗数が4、体高が体幅の1.85倍、体側面に青く縁どられた大きな1黒色斑をもつ、頭部に青い虫食い状斑をもつなどの特徴が、Chen and Shao (1995)とRandall et al. (2015)の示した*Pseudocoris ocellata*の雄の標徴によく一致した。

伊豆半島産の1標本の計数・計測値は、本種を台湾産の10標本に基づき記載したChen and Shao (1995)の示したものと若干の相違がみられ、Randall et al. (2015)が*P. ocellata*の識別的特徴として用いている側線有孔鱗数も既知のものより大きな値を示した (Table 1)。しかし、同程度の変異はシラタキベラダマシ属において種内変異として認められていることから (Randall et al., 2015)、本研究で

はこれらを種内変異と判断した。なおChen and Shao (1995)が計測に用いた5標本は本研究で扱った標本より小型であり (33.9–110.8 mm SL)、Chen and Shao (1995)と本研究により得られた計測値においては、標準体長に占める眼径や尾鰭長の割合などの一部の項目で体長に対する相関が認められたことから (Fig. 3)、計測項目における不一致は成長に伴う変化も要因であると考えられる。*Pseudocoris ocellata*は相模湾で再生産している可能性が高く (後述)、台湾の沿岸域の海面水温は過去40年間に於いて平年的に20–29°Cの間で推移している一方で、相模湾は平年的に15–26°Cの間で推移していることから (気象庁, 2024)、相模湾で得られた個体は台湾で得られたものより低い水温下で初期発生が進んだ可能性がある。Jordan (1891), Hubbs (1922), Barlow (1961), McDowall (2007) および Morris et al. (2017)などは硬骨魚類において同種内でもより低い水温条件において初期発生が進んだ個体は、より高い水温で発生が進んだ個体より脊椎骨および背鰭・臀鰭鱗条、側線有孔鱗などの体節的形質の計数値が多くなる傾向があること、あるいは水温が体節的形質の種内変異の要因の一つであることを認めており (いわゆるJordanの法則: Jordan, 1891; Morris et al., 2017)、台湾と相模湾の標本の間に認められた側線有孔鱗数の差はそれぞれの採集環境の水温に依存している可能性がある。*Pseudocoris ocellata*と同じく北西太平洋産の沿岸性魚類であるセスジボラ *Planiliza lauvergnii* (Eydoux and Souleyet, 1850)においても、縦列鱗数が高緯度海域産標本においては多く、低緯度海域産標本においては少ないという傾向が認められている (Senou et al., 1987; Hasan et al., 2022)。

日本における生息状況 *Pseudocoris ocellata*は1992年

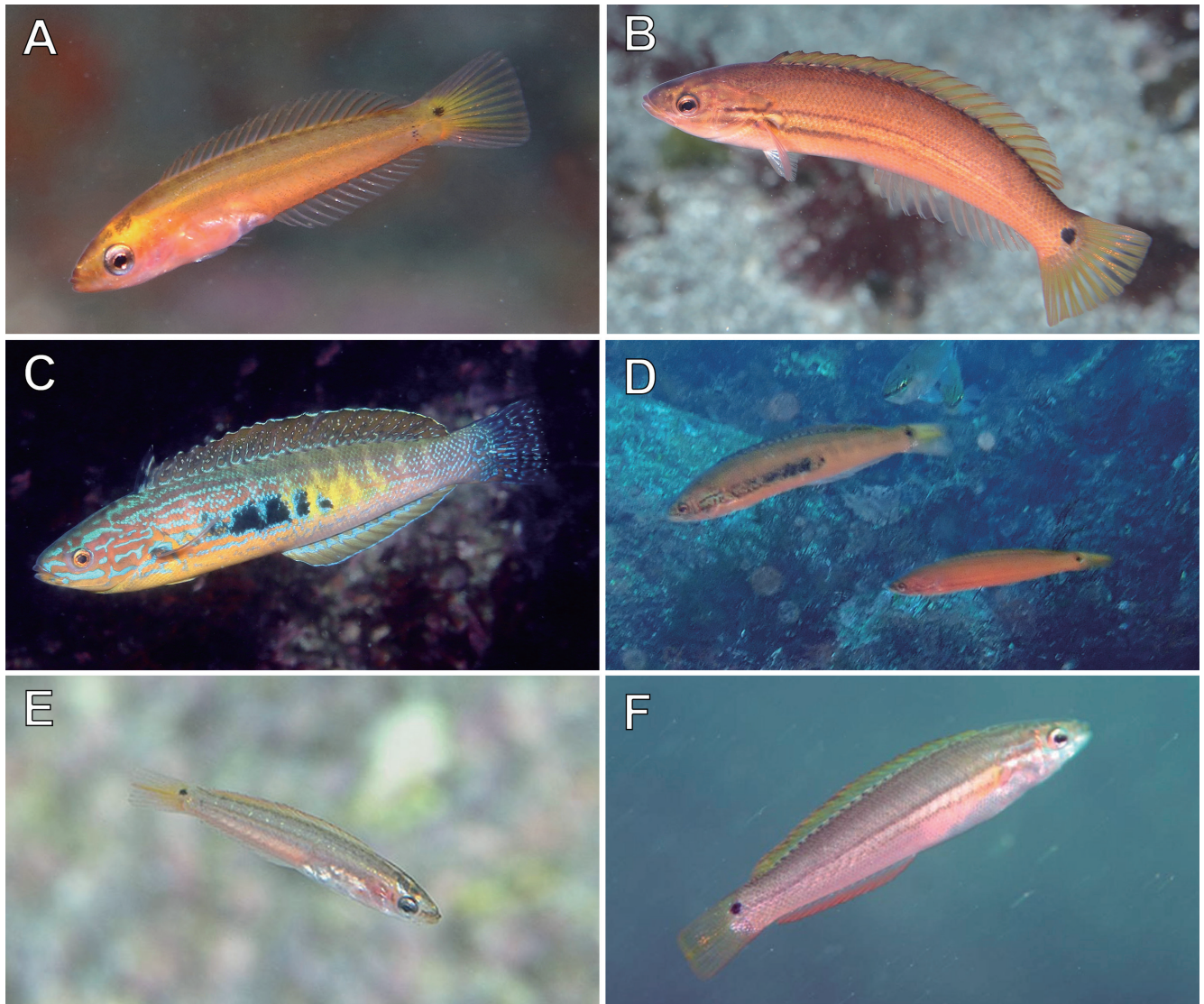


Fig. 4. Underwater photographs of *Pseudocoris ocellata* from Japan. A: KPM-NR 248503, juvenile, I. O. P. (Izu Oceanic Park), photo by W. Takase; B: KPM-NR 248502, initial phase, I. O. P., photo by W. Takase; C: KPM-NR 248501, terminal male, I. O. P., photo by W. Takase; D: KPM-NR 216998, terminal male and initial phase, I. O. P., photo by M. Suzuki; E: KPM-NR 73180, juvenile, Suruga Bay, photo by K. Nin; F: KPM-NR 164222, Suruga Bay, photo by A. Mishiku.

4月および1993年7月に台湾沿岸海域から得られた標本に基づき記載され、少なくとも1994年までは台湾からのみ記録されていた(邵ほか, 1994; Chen and Shao, 1995). 日本においては1994年頃から相模湾南部にあたる伊豆大島沿岸において観察されはじめ、1997年9月には雌雄が撮影され、以後多くの写真記録が得られている(Senou et al., 2006; Kuitert, 2010, 2012; 西山・本村, 2012; 加藤, 2016; 本研究). 1997年11月には相模湾西部にあたる伊豆半島東岸においても記録され、2009年に本種の雌雄および幼魚と見られる個体が発見されて以来、20–140 mm TLまでの様々な成長段階の個体の記録が数多く得られている(Fig. 4A–D; 西山・本村, 2012; 加藤, 2016; 本研究). これらのことから、本種は相模湾において定着・再生産している可能性が高いと考えられる. 瀬能・松浦(2007)と松浦・瀬能(2012)は本種の相模湾における記録について、本来台湾に生息している個体群が生活史初期の段階で、黒

潮の輸送機能により相模湾に流されてくることで出現したものと推測している. さらに相模湾においては伊豆大島に着底した個体群が、その周辺海域で再生産および分散することで、段階的に伊豆半島東岸まで分布を広げたものと推察される.

駿河湾においては2010年9月と2015年9月にそれぞれ1件の写真記録(Fig. 4E, C), 和歌山県においては2009年8月に1件の写真記録(Fig. 5A), 宮崎県南部においては2010年5月に1件の写真記録(村瀬ほか, 2023), 薩摩半島西岸においては2005年5月および2019年7月, 2022年3月にそれぞれ3件の写真記録が得られている(Fig. 5B, C; 田代・古橋, 2022; 詳細は山田守彦氏, 私信). これらの単発的な記録は、いずれも黒潮の影響を強く受ける海域に限られている. 相模湾以南の太平洋岸における本種の記録は、相模湾において再生産した個体群が流入したものの、台湾から黒潮により直接的に輸送されたもののいずれ

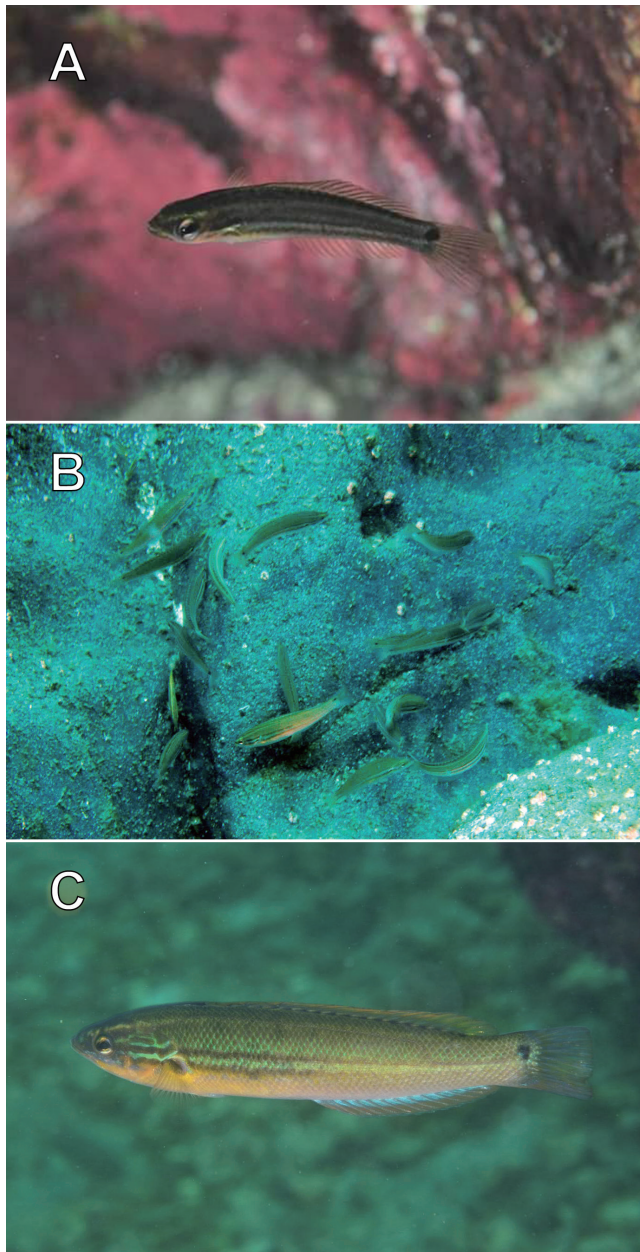


Fig. 5. Underwater photographs of *Pseudocoris ocellata* from Japan. A: KPM-NR 248506, juvenile, Kii Peninsula, Wakayama Pref., photo by M. Mitsugi; B: KPM-NR 248506, initial phase (school), Satsuma Peninsula, Kagoshima Pref., photo by M. Yamada; C: KPM-NR 248507, initial phase, Satsuma Peninsula, Kagoshima Pref., photo by M. Yamada.

れかと考えられるが、結論を得るためには日本太平洋岸からより多くの記録を収集し検討を行う必要がある。

Pseudocoris ocellata には標準和名がないため、伊豆半島産の1標本 (Fig. 1; KPM-NI 78297, 132.5 mm SL) に基づき、新標準和名ヒトミベラを提唱する。これは種小名の *ocellata* がラテン語で「瞳」を表すことと同様に、本種の雄雌に認められる体側面の黒色斑に因む。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、大沼久之氏、橋本郁代氏、兵頭浩二氏、高橋良文氏、古田土裕子氏、山本 敏

氏、鳥巢真充氏、御宿昭彦氏、任 賢治氏、Dive Zest の 参木正之氏、東京大学大学院の末松知宙氏、いおワールド かごしま水族館の山田守彦氏には *P. ocellata* の貴重な水中 写真および撮影時の詳細な情報を提供していただいた。ダ イビングアンティアスの山崎公裕氏には *P. ocellata* の分布 記録の収集にご協力をいただいた。以上の方々に対し、謹 んで感謝の意を表する。

引用文献

- Barlow, G. W. 1961. Causes and significance of morphological variation in fishes. *Systematic Zoology*, 10: 105–117.
- Chen, C. Y. and K. T. Shao. 1995. New species of wrasse, *Pseudocoris ocellatus* (Pisces: Labridae), from Taiwan. *Copeia*, 1995: 689–693.
- Chen, C.-Y., K.-T. Shao and Y.-Y. Tu. 2004. Effect of thermal discharges on the fish assemblages of a nuclear power plant in northern Taiwan. *Journal of Marine Science and Technology*, 12: 404–410. [URL](#)
- Fricke, R., W. N. Eschmeyer and R. van der Laan (eds.). 2024. Eschmeyer's catalog of fishes: genera, species, references. [URL](#) (11 Jan. 2024)
- Hasan, M. E., A. Hasan, P. Béarez, K.-N. Shen, C.-W. Chang, T. T. V. Tran, D. Golani, A. Al-Saboonchi, P. J. A. Siddiqui and J.-D. Durand. 2022. *Planiliza lauvergnii* (Eydoux & Souleyet, 1850), a senior synonym of *Planiliza affinis* (Günther, 1861) with a re-evaluation of keeled back mullets (Mugiliformes: Mugilidae). *Zootaxa*, 5194: 497–518.
- Hubbs, C. L. 1922. Variations in the number of vertebrae and other meristic characters of fishes correlated with the temperature of water during development. *American Naturalist*, 56: 360–372.
- Jordan, D. S. 1891. Relations of temperature to vertebrae among fishes. *Science*, 18: 104–107. [URL](#)
- 加藤昌一. 2016. ネイチャーウォッチングガイドブック：ベラ & ブダイ. 誠文堂新光社, 東京. 319 pp.
- 気象庁. 2024. 旬平均海面水温. [URL](#) (24 Feb. 2024)
- Kuiter, R. H. 2010. Labridae fishes: wrasses. *Aquatic Photographics*, Seaford. 390 pp.
- Kuiter, R. H. 2012. Labridae fishes: wrasses. Second edition. *Aquatic Photographics*, Seaford. 398 pp.
- 松浦啓一・瀬能 宏. 2012. 黒潮と魚たち, pp. 3–16. 松浦啓一 (編) 黒潮の魚たち. 東海大学出版会, 秦野.
- McDowall, R. M. 2007. Jordan's and other ecogeographical rules, and the vertebral number in fishes. *Journal of Biogeography*, 35: 501–508. [URL](#)
- Morris, M. R. J., E. Petrovitch, E. Bowles, H. A. Jamniczky and S. M. Rogers. 2017. Exploring Jordan's rule in Pacific three-spined stickleback *Gasterosteus aculeatus*. *Journal of Fish Biology*, 91: 645–663. [URL](#)
- 村瀬敦宣・渋谷風雅・長友伸二郎・緒方悠輝也・大衛亮正・本村浩之・瀬能 宏. 2023. 水中写真に基づく宮崎県南部沿岸域の魚類相とその生物地理学的組成. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 33: 33–114. [URL](#)
- 西山一彦・本村浩之. 2012. 日本のベラ大図鑑. 東方出版, 大阪. 303 pp.
- Randall, J. E., A. D. Connell and B. C. Victor. 2015. Review of the labrid fishes of the Indo-Pacific Genus *Pseudocoris*, with a description of two new species. *Journal of the Ocean Science Foundation*, 16: 1–55. [URL](#)
- Sabaj, M. H. 2020. Codes for natural history collections in ichthyology and herpetology. *Copeia*, 108: 593–669. [URL](#)
- Senou, H., K. Matsuura and G. Shinohara. 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. *Memoirs of the National Science Museum*, 41: 389–542.
- 瀬能 宏・松浦啓一. 2007. 相模湾の魚たちと黒潮 — ベルトコンベアーか障壁か —, pp. 121–133. 国立科学博物館 (編) 相模湾動物誌. 東海大学出版会, 秦野.
- Senou, H., T. Yoshino and M. Okiyama. 1987. A review of the mullets with a keel on the back, *Liza carinata* complex (Pisces: Mugilidae). *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory*, 32: 303–321.

- 邵 廣昭・陳 正平・沈 世傑. 1994. 墾丁國家公園海域 魚類圖鑑. 內政部營建署墾丁國家公園管理處, 屏東. 427 pp.
- 財団法人日本色彩研究所. 1993. 改訂版 色名小事典 改訂第 12 刷. 日本色研事業株式会社, 東京. 90 pp.
- 田代郷国・古橋龍星. 2022. ペラ科, pp. 194–213. 岩坪洸樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.